

---

# サメ惑星

愛・武者修行

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サメ惑星

### 【Nコード】

N4475BA

### 【作者名】

愛・武者修行

### 【あらすじ】

サメが陸で暮らす惑星です。

ここは、サメが進化して陸に上がり人間は海で暮らしている星。

「なあ、今日も人間を捕ってこようぜ」ホオジロザメ人間の健二が言う

「健二の兄貴、いいつすねー。人間の目玉のソテーでも食べますか」メジロザメ人間の正がそれに答える。

二人は、海へ行き漁船に乗り、人間を釣りに行った。

海には60億人以上の人間が世界各国の浅瀬から深海にいたるまで、様々な場所で暮らしている。

「これから行く場所は俺の秘密の穴場だぜ」そう言っつて、健二の兄貴は正を連れて行った。

しばらく、荒れ狂う波を横切り秘密の場所に到着した。

人間一本釣り、次々と人間は上がって行った。もう、老若男女20人は釣れただろうか。

「ヒヤッハー！ 今日のご飯は豪勢になりそうだ」健二は顔を紅潮させて、叫ぶ。

「た、助けてちょんまげ」30代と思われる人間の男が、懇願する。

「やだねったら、やだねっ！」正が演歌を歌いながら、愉快そうに言う。

その時!!! 船が近づいてきた。

「あれは、密漁船！」健二が憤怒の顔で言った。

密漁船は船を横付けし、様々なサメ人間が船に乗り込んで来た。

そして、先ほど捕まえた人間全部を持って行ってしまった。

健二は銃を取り出した。その銃はサメ人間専用の銃だ。サメの歯が弾になる。

健二は自分の歯を抜いて銃に込めた。歯はサメなのでまた生えてくるので、心配ない。

そして、銃を乱射した。

しかし、時既に遅し。密漁船には届かなかった。  
「くーやしー」二人は、はもって言った。  
これが、この星の日常風景だ。ちゃんちゃん。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4475ba/>

---

サメ惑星

2012年1月12日01時01分発行